

斑点米カメムシ類による斑点米被害の発生を防ぐために 水田周辺の草刈りを適期に実施しましょう！

1 作物名 水稲

2 発生現況

- (1) 巡回調査の結果、水田周辺の畦畔におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率は平年並、すくい取り虫数は平年よりやや多かった。(図1)。
- (2) 巡回調査の結果、水田におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率は平年より高く、すくい取り虫数は平年より多かった。(図2)。
- (3) アカスジカスミカメは県広域で本田への侵入が確認されている。また、大型のホソハリカメムシ及びクモヘリカメムシも複数地点で本田への侵入が確認されている。

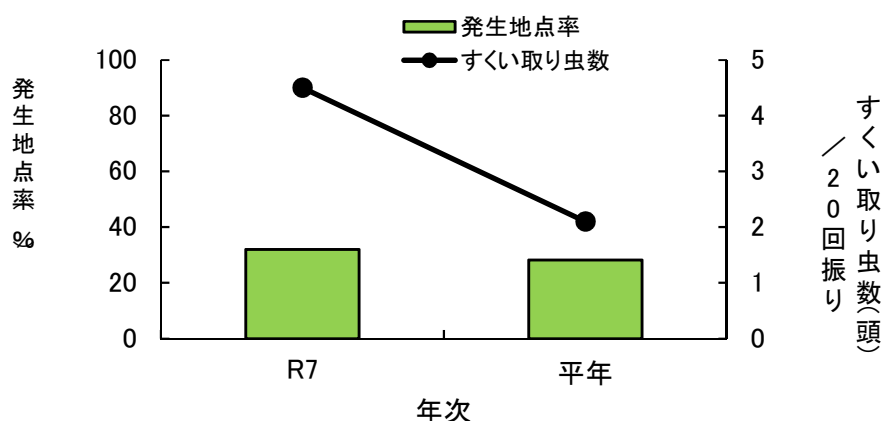


図1 水田周辺の畦畔におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率とすくい取り虫数（巡回調査：6/23～6/27）

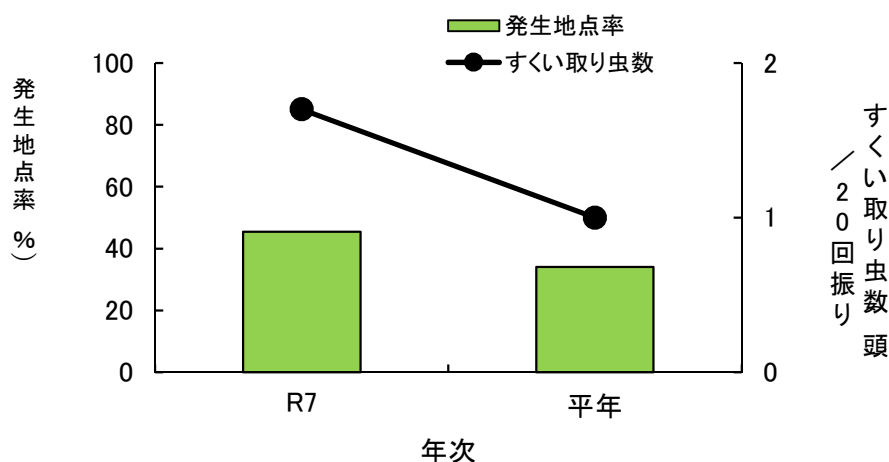


図2 水田におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率とすくい取り虫数（巡回調査：6/23～6/27）

3 防除のポイント

(1) 水田雑草防除(7月上旬まで)

- ・ イヌホタルイ、ノビエ等の水田雑草が残草している場合は、斑点米カメムシ類(特にアカスジカスミカメ)の水田への侵入や斑点米被害を助長するので、雑草の穂が出る前の7月上旬までに除草を行ってください。以下の URL を参照してください。

※「中後期除草剤による雑草防除が及ぼすアカスジカスミカメの密度抑制効果」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/r3hukyuugi27.pdf>

(2) 水田周辺の草刈り(7月中旬、出穂 10 日前まで)

- ・ 水田周辺のイネ科雑草の刈取りは、斑点米カメムシ類(特にアカスジカスミカメ)の密度を低くするため、幼虫主体の時期である7月中旬までに行ってください。
- ・ 水田畦畔の草刈りは、水稻の出穂前後に行うと水田内にカメムシ類を追い込むことになるため水稻の生育状況を確認し、出穂 10 日前までに行ってください。

(3) 薬剤防除(出穂期以降)

- ・ 薬剤防除は、穂揃期とその7～10 日後の2回防除が基本です。
- ・ ジノテフラン液剤(スタークルメイト液剤 10 等)、エチプロール水和剤(キラップフロアブル)、スルホキサフル水和剤(エクシードフロアブル)はアカスジカスミカメに対する防除効果が高く、特に、ジノテフラン液剤は残効が長く、2週間程度は発生密度を抑制することができる。
- ・ イヌホタルイ、ノビエ等が発生した水田で除草ができなかった場合は、1回目の薬剤散布時期を「出穂始から穂揃期」に早めることでアカスジカスミカメの密度を低下させ被害軽減できます。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム